

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念としている「自分が住みたいホーム・自分の家族を住ませたいホーム」を念頭に置き、ご利用者様個人個人にあった介護サービスの提供を研修等にて検討し実践につなげている。	理念である「自分が住みたいホーム・自分の家族を住ませたいホーム」を職員、利用者家族や訪問客が目に出る玄関に掲示しています。内部研修で理念に沿った利用者、一人ひとりあった介護サービスの提供について話し合い、実践につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りでの子供神輿や大人神輿の休憩場所に駐車場を開放して、飲物等を提供して、ご利用者様と地域の皆様との交流を図っている。	地域の夏祭りには事業所の駐車場を開放し、子供神輿や大人神輿の休憩所として提供しています。神輿が到着の際には、利用者は神輿の担ぎ手や地域の人々と楽しそうに、笑顔で交流をしています。(写真)	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者様と一緒に近隣を散歩するコースに畑があり、その畑で作業している方から、いつも声を掛けて頂き、ご利用者様も楽しみにされています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、カラー写真による活動報告を通じて、日常の活動内容をより理解しやすいように、活動目的についても説明しております。	運営推進会議は奇数月の第3木曜に開催しています。参加者には活動状況を分かり易く理解してもらうため、日々の様子を撮った写真を使い、説明をしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	変更届の提出の際、指導監査課からの指導・助言を受けたり、生活支援課との連携を通じて、生活保護への移行をスムーズに行うことが出来ました。	市との連携を密にとっています。指導監査課からは変更届提出訪問時に指導、助言をもらっています。また、最近では生活支援課と、利用者の生活保護への移行で連携し、問題なく実施出来ました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束等適正化委員会を開催し、禁止の対象となる具体的な行為だけでなく、不適切なケアについても具体的な事例を用いて議論し、情報共有している。	「身体拘束等適正化委員会」を定期的開催し、具体的な事例をもとに禁止の対象、不適切なケアについて取り上げ、理解の共有を図っています。所内、出入口の鍵は日中、すべて解錠し、夜は防犯上、必要な箇所、玄関等を施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1年間の全体研修計画に基づき、高齢者虐待防止についての研修を実施している。各事業所でも定例会議の中でマニュアルを活用し、虐待が無いよう職員同士がお互いにチェックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者様の中には、キーパーソンが遠隔地で、各種契約手続きの保証人として対応頂いているが、高齢でもあり、成年後見制度の必要性については話し合いを重ねている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に重要事項説明書を用いご家族(利用者)に十分な説明を行い理解を得ている。又、重要事項説明書の一部改訂の際、説明会や文書を送付し、ご家族様の理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者・ご家族が相談・苦情の訴え先をポスターで掲示している。また、実際に相談・苦情があった時は管理者へ報告し、会議や申し送りノートで共有し、不満苦情に対応できるよう心掛けている。	利用者や家族からの意見、相談、苦情を吸い上げ易くするため、窓口の連絡先を事業所内ポスターに掲載しています。相談や苦情は管理者に伝えられ、会議での報告や申し送りノートへの記載で全員が共有しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議を通じて、事業部長も参加し、職員と直接意見交換している。又、必要に応じて、代表者・管理者と個人面談を行い、不満や要望などを聞き、働きやすい環境を整えるよう努めている。	事業所幹部の事業部長が定例会議に参加することで職員からの意見を直接取り上げ、運営に反映することが出来ています。最近ではリビング・レイアウトの変更、食事提供方法の変更など職員の意見による改善がありました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤怠をはじめ、勤務態度、理念に基いた介護サービスの実践、利用者様に対する接し方を考慮し、職員の希望に応じて面談を実施し、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県・市など主催の研修・講習の開催を知らせ希望者又は必要と思われる職員への参加を促している。又定期的に当社職員へ向けての内部研修を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の介護事業だけではなく、他業種の方との交流会・勉強会・健康麻雀を定期的に開催して、交流の機会を作り、ネットワークの構築を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用希望者と面談し、不安を取り除くよう対応をしている。又、馴染みのある私物を持ち込んで頂き、自宅に住んでいたときと変わり無い様に、暮らして頂けるよう取り組みを行なっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が知るご利用者様の情報を、入居前にアセスメントして、入居後の生活面での不安を出来るだけ解消出来るよう対応している。また、個人情報、外部に漏れる事の無いようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネがご本人・ご家族・前任ケアマネから必要としている介護・支援内容をヒアリングし、ご意向を伺い、自立支援を基本とした最良の方法を視野に入れ、相談に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	“自立支援”を原則として、ご利用者様が出来ることは希望を伺いながら、それぞれの役割を持って頂く。ご本人の出来ない部分・苦手な部分を支援させて頂く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、写真付きのお便りをご家族様宛に郵送して、日頃のご利用者様のご様子を伝えて、安心して頂くと共に、医療面についても細かく伝えて、関係性を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様によって、ご親戚や馴染みの人が来所された場合は、居室内で時間の許す限り、ゆっくりと過ごして頂くようにしている。日頃の生活の様子についても説明している。	利用者の親族や馴染みの人の訪問時には利用者の居室内で、ゆっくり過ごせるようにしています。職員からは日頃の生活状況を伝え、所内の廊下に掲示した写真からも、活動の様子が伺えるようにしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様それぞれの性格を理解し、自然と関わり合えるようリビングでの席の配置には十分に配慮している。また、ご自分で関わり合いの関係構築に難しい方達には、職員が間に入り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、ご家族より要請などがあれば、その都度相談に応じて、適切なアドバイスが出来るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の何気ない会話からご利用者の思いを汲んで、ケアプランの介護サービスに反映させている。また、ご本人の態度・言動・表情を見ながら、少しでも思いに寄り添えるように努めている。	職員は日常、会話の中から利用者の思いを把握して、それをケアプランに反映させています。特に利用者の言動、表情や態度の変化を察知し、一人ひとりの思いに寄り添ったサービスを心掛け、生活支援を実践しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様に、今までの暮らしなどを伺い、ホームでもご本人の生活習慣を継続できるように心掛けている。また、馴染みのあるお部屋を再現出来るよう、ご家族様にもご協力頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床から就寝に至るまでの言動や表情から水分摂取量・食事量・気分の浮き沈みなどのご様子をケース記録に入力し、入浴時の身体の状態・ADLの確認も併せて記録に残して、情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスでは、職員全員が参加し、ご本人の希望される暮らしの為にサービス内容を作成している。計画書を作成する際に、内容をご理解頂いた上で、ご家族の署名・押印を頂いている。	全職員が参加するケアカンファレンスで「利用者が希望する暮らしを支援するサービスの提供」を念頭に介護計画を作成しています。家族には内容を説明し、理解を得て署名と押印をもらっています。見直しは入院などの変化があり、必要な場合には適宜行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護ソフトのケース記録に日々の様子等を入力し、いつもと異なる出来事で情報共有が必要な場合、送りノートや口頭の送りをしている。また、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向にできるだけ沿うようにして、希望に応じて外出支援している。また、買物に行く際、欲しいものや食べたいものを伺って、楽しみの機会を増やしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々にご協力頂き、定期的に民謡会やアロママッサージの施術をして頂き、楽しむことができる機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望された方は、協力医療機関の内科の往診が隔週で行なわれている。必要に応じて、精神科・眼科・皮膚科の往診を受診している。急変時には緊急往診を受ける体制を整えている。	協力医療機関の内科の訪問医が隔週で往診してくれます。精神科、皮膚科、眼科も必要に応じて来て来ています。また、緊急時には緊急往診を受けられる体制ができています。かかりつけ医を受診している利用者はいません。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	様々な気づきは、介護ソフトのケース記録や送りノートに記録し、必要に応じて看護師に相談している。緊急時は24時間オンコール体制を取っており、医療職の指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には当ホームにおける日常生活が分かる介護サマリーを作成し、情報提供している。また、退院後は診療情報提供書にて往診に来られる医師や看護師に必要な情報を伝え、情報共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を定め、契約時に重要事項説明時に同意書を頂いている。また、実際に看取り介護に移行する際には会社独自に定めた看取りの指針に同意頂いた上で、終末期に穏やかに最期を迎えられるよう支援を行っている。	契約時の重要事項説明の際、家族から重度化指針の同意書を受領し、保管してあります。また、実際に看取り介護に移行する段階で再度看取り介護の指針に同意をもらい、穏やかな終末期を迎えられるよう支援しています。最近1年間での看取り例はありません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の防災訓練時に応急処置訓練にて消防署員の指導のもとAEDを使用した心肺蘇生訓練を実施している。また、社内研修を定期的に行い、実践力アップに繋げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練では、日中と夜間の火災発生を想定した通報・消火・避難訓練を実施している。また、社内研修を定期的に行い、実践力アップに繋げている。	防災訓練は、年2回日中と夜間の火災の発生を想定し、通報、消火、避難訓練を実施しています。そのための社内研修を複数回実施し、レポートの提出を求めて研修の実効性を高め実践力の向上に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念研修を通じ、ご利用者様お一人おひとりの思いをくみ取り、気持ちに配慮したお声掛けを心掛けている。また、入浴や排泄介助の時は、プライバシーを損ねる事の無いよう、声掛けにも配慮している。	職員は理念研修を通して利用者の一人ひとりに対し、その思いや気持ちをくみ取り、寄り添いながら声かけを心がけています。特に入浴や排泄介助に際して尊厳やプライバシーを損ねないよう支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員への気遣いから遠慮されていることも多くあるので、何気ないご利用者様同士の会話の中から、ご本人の思いを汲み取れるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買物等については、出来るだけ希望に沿えるようにしている。また、日頃のご利用者様との関わりの中からご意向を汲み取り、想いに沿ったケアを行うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の決定等のご利用者様にお任せするようにしている。出来ない方には表情を見たりしながらその方が選択できるような支援をするように心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	見た目や香りでも愉しんで頂けるように季節の野菜を食材として使用している。また、ご利用者様と一緒に買物に出掛けて、食べたいものを伺いながら、食事メニューを決めている。	食事は食欲を満たすだけでなく利用者に喜び、楽しみをもたらします。見た目、香りを楽しんでもらえるよう季節の野菜を食材に使用しています。職員と利用者が食材の買出しに行き相談しながらメニューを決めています。行事食を楽しむ利用者の姿が印象的です。(写真)	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、食事量・水分量を記録している。摂取量が少ない場合でも次の日に引継ぎを行い、栄養・水分量が確保している。また、ご利用者様に応じた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの支援を行っている。また、利用者様に応じて、週1回、協力医療機関の訪問歯科医による口腔ケア・クリーニング・治療・義歯の調整修理をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の排泄パターンに応じて、定期的にトイレに誘導している。排泄を失敗された時は、ご本人の自尊心を傷つけないように、声掛けを工夫している。	利用者一人ひとりの異なる排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が可能になるよう定期的に誘導しています。また、失敗した場合には、利用者の自尊心を傷つけないよう声かけを工夫して支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談し、ご利用者様によっては、最終排便から72時間経過後から、下剤を服用頂き、排便をコントロールしている。また、食物繊維を多く含んだ食材を使用して便秘防止を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日・時間帯は、人員体制や同姓介助出来るよう調整しているが、その日に入浴の予定がなくても、ご利用者様の入浴の希望があれば、その都度応じている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンや活動パターンに合わせた支援を行い、その方にとって一番休息となったり安眠がとれるような工夫を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導料を頂き、隔週の往診時に薬剤師・看護師が立会い、主治医の処方内容について、ケース記録に入力し、必要に応じて送りノートにも記入して、情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の得意な事を役割として行えるように努めている。演歌が好きなご利用者様にCDを聞いて頂き、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材や日用品の買い出しにはできるだけ外出を希望するご利用者様と一緒に行くようにしている。また、ご本人の希望を伺い、外出支援出来るような勤務体制を組んでいる。また、家族の支援も受けながら、支援している。	日常的な外出支援としては、職員の食材や日用品の買い出しの際に外出を希望する利用者を同行するようにしています。そのほか、利用者の希望も聞きながら外出ができるよう家族の応援も受けたり、勤務体制を整えたりして支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様によっては、少額のお金を所持を認めている。また、意向に沿った買物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方については電話のやり取りの支援を行なっている。また、ご家族様からの手紙に返事を書いて頂いたり、LINEで写真や動画を送り、近況報告している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が過ごし易い環境を整え、居心地の良い空間を心掛けている。特に季節感を感じていただけるよう、玄関やリビングには季節に応じた装飾を施している。	共用空間、特にリビングは利用者が日中過ごす時間のもっとも多い場所です。過ごしやすい環境、居心地のよい空間になるよう支援しています。特に、玄関を含め季節に応じた装飾を施して工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際の席は決まっているがそれ以外は制限など無く自由に使用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた馴染みのある家具や私物を持ち込んでいただき自宅と変わらない様な環境で過ごす事が出来るようにしている。中には、仏壇を持ち込まれて、毎日、手を合わせておられる。	居室は居心地良く自宅と同様に過ごせるような環境が求められます。事業所では馴染みの家具や道具を持ち込んでの環境作りに努めています。仏壇を持ち込んでいる方、家具類は少なく室内を整理して使用している方等様々です(写真)。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ季節感を感じて頂けるよう、リビング内の装飾や飾りつけをご利用者様と一緒に行う事により、より自立出来るよう、日々工夫している。		